福岡市共働事業提案制度

事業の進捗状況資料（平成 30 年度）

福岡市共働事業提案制度　平成 29 年度採択事業

FUKUOKAおさかなレンジャー実行委員会

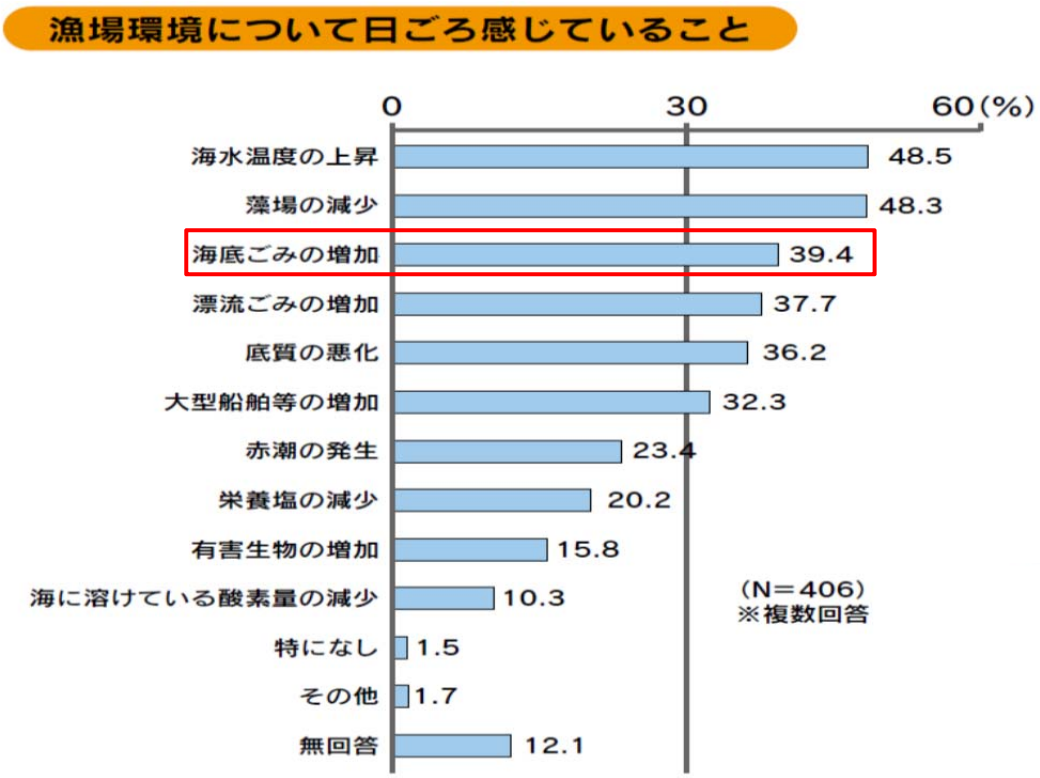
《一般社団法人ふくおかFUN　・　福岡市農林水産局水産部水産振興課》

1　共働のきっかけ・必要性

（1）水産振興課がこの事業に取り組む理由

博多湾は「魚がおいしいまち」として知られる福岡のイメージを支えるとともに，多種多様な漁業が営まれ，新鮮で美味しい魚介類が獲れる豊かな海であるが，市街地から側溝や河川などを通してごみが流入し，一部が海底ごみとなり，漁業の操業や漁場環境に影響を及ぼす要因となっている。水産振興課では、漁業者と連携して海底ごみ回収を行っているものの，平成 27 年度に市内の漁業者を対象に実施した「漁家意識調査」では，多くの漁業者が海底ごみの増加を感じているなど，漁業者と行政だけでは解決が困難な状況であり，市民の協力が必要である。

【平成 27 年度　漁家意識調査結果】



（2）NPO 等がこの事業を提案した理由

（一社）ふくおか FUN は，主にダイバーが中心となり，自主事業において市民に向けて博多湾の現状や課題を伝えてきた。今後，博多湾をこれまで以上に豊かな海にしていくために，市民意識の向上に向けた動きに注力していきたいと考えていたが，博多湾の実情を調査するにあたり，単体では漁業者や関係機関との協議及び調整が難しいことからこの事業を提案した。本事業を行うにあたって，（一社）ふくおかFUNは水中調査・撮影の技術を有していること，写真展やイベント等を通じた市民啓発の機会が多いこと，メディアとの関わりも深いことがこの事業に活かせると考えた。さらに，海底ごみ問題を大人にもこどもにも身近な問題として認識してもらえるよう市民啓発方法としてキャラクターの制作・活用をアイディア提案するなど，より効果の高い事業展開に関しての企画提案力があった。

（3）共働事業のきっかけ・必要性

これまで，（一社）ふくおか FUN 及び水産振興課では，それぞれが個々に博多湾の海底ごみ削減に向けた活動を行っているが，（一社）ふくおか FUN では漁業者や行政機関等との協議・調整が難しく，水産振興課では海底ごみの「見える化」のための実態把握（水中写真や映像の確保）が困難であった。

このため，日頃から福岡市漁協等との調整を行っている水産振興課と，水中調査・撮影の技術やビーチクリーンアップなどの環境保全・啓発活動について多くの実績があり，メディアとの関わりも深い（一社）ふくおかFUNが共働することで，多様な主体を巻き込んだ効果的な市民啓発を行うことができ，海底ごみ削減の動きを活性化することができる。

2 事業目的

博多湾は「魚がおいしいまち」として知られる福岡のイメージを支えるとともに，多種多様な漁業が営まれ，新鮮で美味しい魚介類が獲れる豊かな海であるが，市街地から側溝や河川などを通してごみが流入し，一部が海底ごみとなり，漁業の操業や漁場環境に影響を及ぼす要因となっている。水産振興課では漁業者と連携して海底ごみ回収を行っているが，回収されるごみの量は減少していないため，海底ごみ削減に向けた新たな取組みとして，海底ごみやごみそのものの発生を抑制するリデュースについての市民意識を高め，陸域から博多湾に流入するごみを減らし，漁場環境保全の観点から福岡の豊かな海を守る。

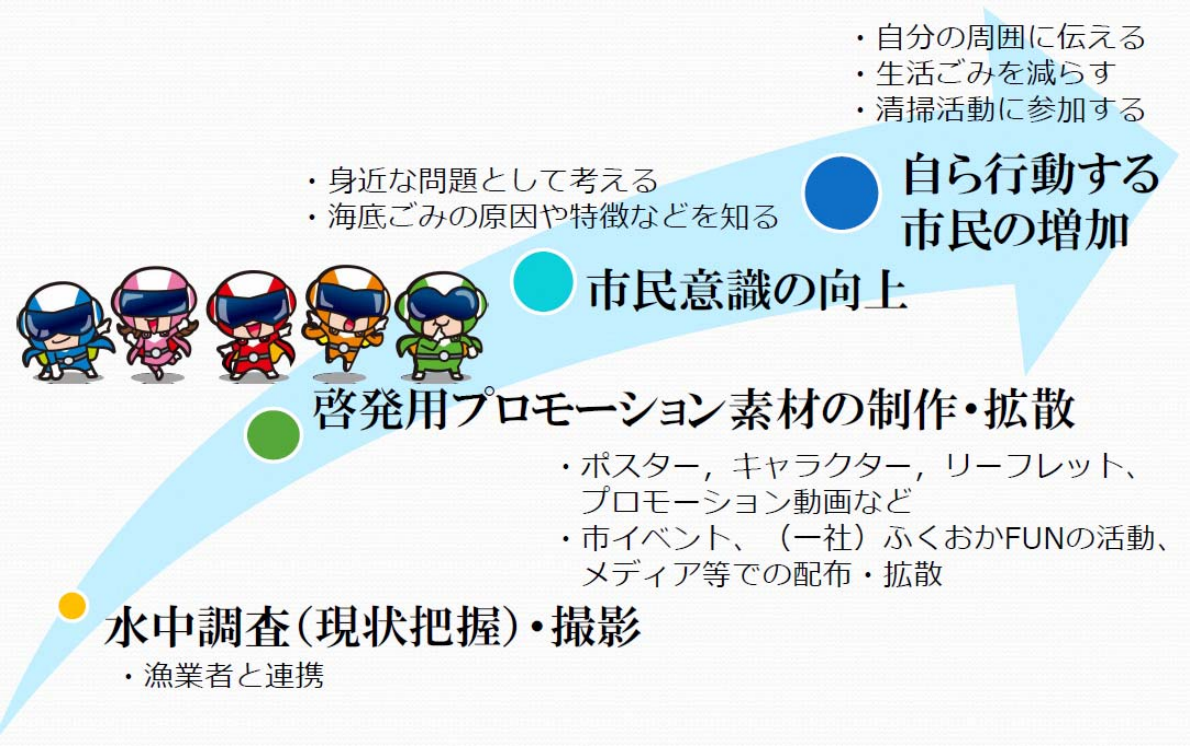
3 事業目標

【活動目標】

①博多湾の海底ごみの「見える化」

・博多湾内の水中調査・撮影を実施するとともに，海底ごみの分布状況や主なごみの種類等を把握し，啓発用プロモーション素材を制作する。

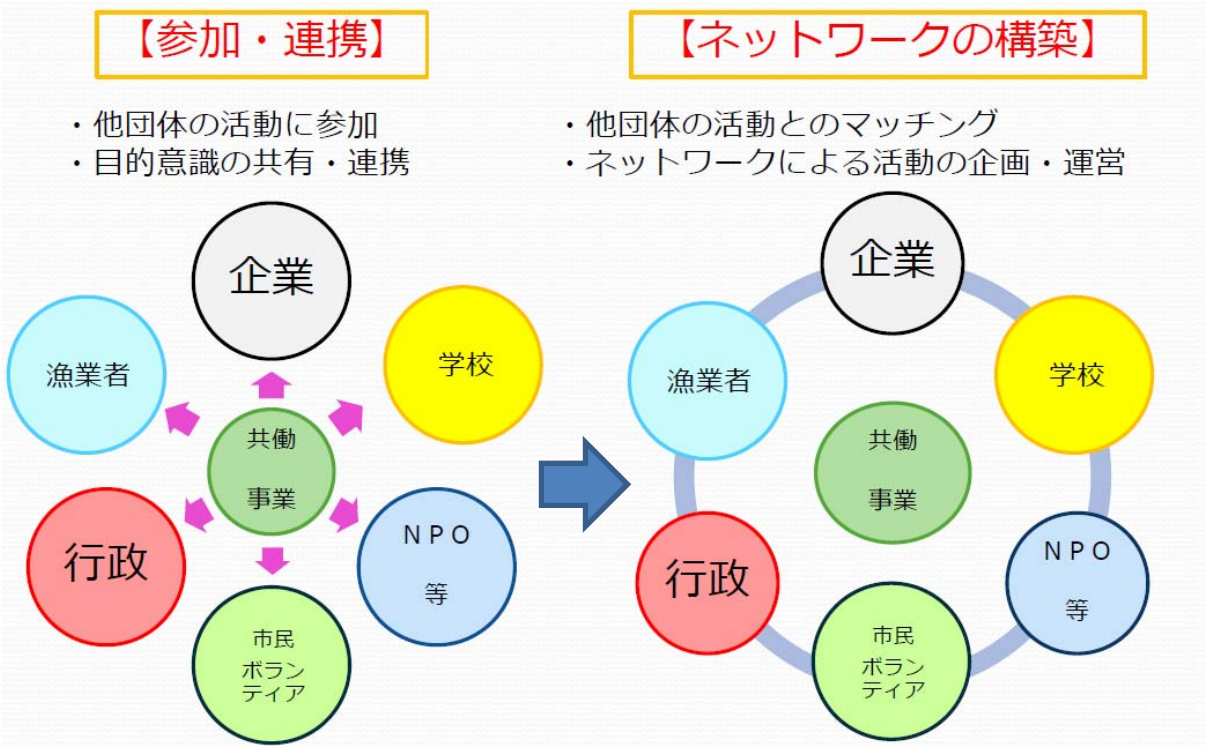
・制作したプロモーション素材を活用し，市や（一社）ふくおか FUN，他団体のイベントなどの様々な機会を捉え，効果的な広報・啓発を行う。



②他団体との連携

・他団体が実施する環境活動等に参加し，団体同士の繋がりを深める。

・NPO・行政・漁業者等多様な主体による海底ごみ削減のネットワーク構築を目指す。

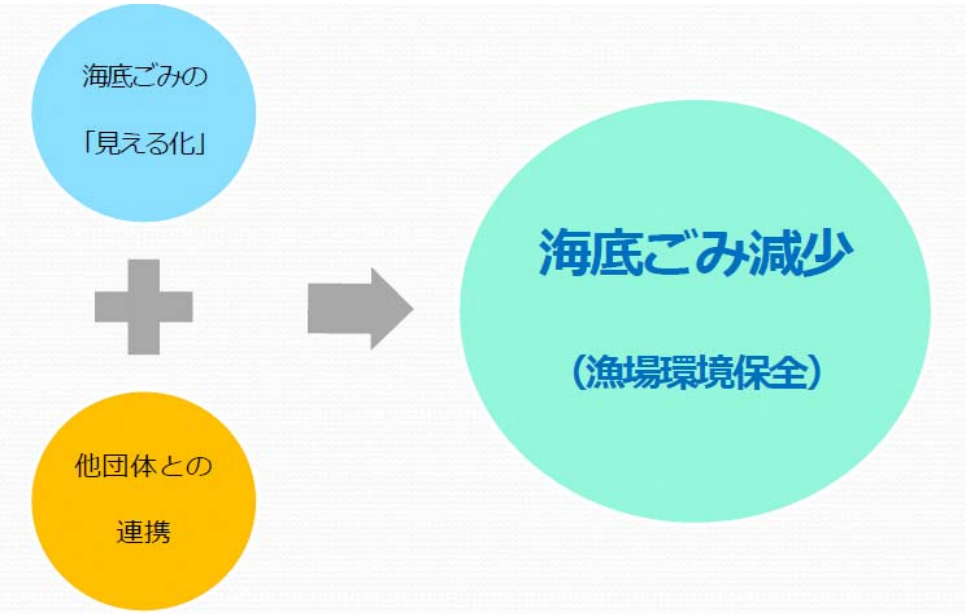


【成果指標】

成果指標	目標値
海底ごみについての市民意識	向上する
リデュースについての市民意識	向上する
漁場環境に関する漁業者意識 （海底ごみの増加を感じる漁業者の割合）	減少する

【最終目標】

博多湾の海底ごみや，リデュースについての市民意識が高まり，陸域から博多湾に流入するごみが減ることで，漁場環境が保全され，新鮮でおいしい魚介類が獲れる豊かな博多湾がより豊かになり，福岡市の水産業振興に寄与する。



4 事業内容

1. 博多湾の海底ごみの「見える化」

(1)博多湾内での水中調査・撮影

博多湾内において海底ごみ及び周辺状況の水中写真や映像を撮影した。調査・撮影にあたっては，博多湾のことをよく知る漁業者と協力し，博多湾に流入する河川の河口域を重点的に調査・撮影し，ごみの流入状況・種類等の把握を進めた。

●実施期間：平成 30 年 4 月～7 月

●実施回数：計 10 回

●各調査地点及び実施時の状況は以下のとおり。(水中調査・撮影地点は以下図を参照。)

① <u>室見川河口付近(C 地点)</u> 4/10(火)10:30-11:20

② <u>樋井川河口付近(C 地点)</u> 4/10(火)12:00-12:40

③ <u>多々良川橋脚下付近(A 地点)</u> 5/24(木)10:30-11:00

④ <u>多々良川河口名島海岸付近(A 地点)</u> 5/24(木)11:30-12:40

⑤ <u>東防波堤灯台寄り(博多湾東部水域)(B 地点)</u> 5/29(火)10:15-11:00

⑥ <u>東防波堤三角地帯(博多湾東部水域)(B 地点)</u> 5/29(火)11:40-12:30

⑦ <u>勝馬海岸(志賀島北西部)(F 地点)</u> 6/26(火)10:30-11:40

⑧ <u>大崎南側(志賀島北西部)(F 地点)</u> 6/26(火)11:55-12:40

⑨ <u>西日本豪雨後の海岸・河川</u>(長浜，地行浜，多々良川，博多港船着き場を陸上から撮影) 7/10(火)

⑩ <u>西日本豪雨後の河川</u>(室見川河口域を陸上から撮影) 7/11(水)

◎確認・撮影した海底ごみ

ペットボトル，ビニール袋，ドリンク缶，ロープ，釣具，自転車，はしご，籠，布，工事用コーン土台，簡易椅子，プラスチック食品トレー，お菓子類袋，軍手，ペットボトルのラベル，車用スプレー缶，酒ビン，漁具，紙おむつ，哺乳瓶，アルミホイル　等

（2）啓発用プロモーション素材の制作

（1）で記録した写真や映像データをもとに，市民に海底ごみの存在を知らせ，リデュース意識を高めるためのプロモーション素材の制作を進めた。この素材は，各種イベント・活動における配布や，インターネット上での拡散等、様々な手法を用いて今後一人でも多くの市民の目に触れる形で広めていく。

素材の制作にあたっては，大人にもこどもにもより身近な問題として捉えてもらうため，「FUKUOKAおさかなレンジャー」をキャラクター化する。

●実施期間：平成 30 年 4 月～9 月

●平成 30 年度中に制作を予定している啓発素材および進捗状況

①事業 PR ポスター

イベントや他団体活動への参加の際に，本事業を市民や関係者に向けて分かりやすく説明するための事業PRポスターを制作した。

②「FUKUOKAおさかなレンジャー」キャラクター

専門学校九州デザイナー学院の全面協力のもと，キャラクター制作を行っているところである。九州デザイナー学院イラストレーション学科生から集まったキャラクター30 案のうち，数案について一般投票を実施する。

一般投票を行う場所は，こどもや一般市民，NPO関係者が多く集まる場所を選定する。投票結果を参考に，実行委員会にて1つの作品を決定する。決定した作品は今後すべての啓発素材において活用していく。また，平成 30 年 11 月に開催される「農林水産まつり」において，制作者の表彰を行う。

③リーフレット等の紙素材・海底ごみ削減啓発動画

博多湾内で調査・撮影した映像及び②で決定したキャラクターをもとに，市民感覚に訴えかけ，広く拡散される啓発素材を制作する。海底ごみの現状や課題，対策について啓発するだけでなく，豊かな博多湾についてもPRするとともに，実際の漁業の様子や漁業者の声を盛り込むなど，海底ごみやリデュースに対する市民意識が向上するよう工夫する。

2. 他団体との連携

他団体が実施する清掃活動等に参加することで，近い意識を持つ団体同士の繋がりを深めるとともに，海底ごみ・リデュースに対する啓発を行った。

●実施期間：平成 30 年 4 月～9 月

●実施回数：計 10 回

●参加活動・啓発方法・対象者人数等　※【】内は実施主体

①5/13（日）樋井川の清掃【はかたわん海援隊（福岡大学）】

清掃活動参加後に参加者に向けて啓発を実施。

（対象者 21 名：　高校・大学生 18 名，他 3 名）

②5/26（土）博多湾漁場クリーンアップ作戦（海底ごみ回収）【福岡市漁協青壮年部】

J：COMのインタビューを受け，TV放送された。

③6/10（日）長垂海浜公園の清掃【ラブアース・クリーンアップ】

清掃活動のみ実行委員会メンバー全員で参加。啓発活動なし。

④6/24（日）多々良川の清掃【NPO法人ふくおか湿地保全研究会】

清掃活動前に参加者に向けて啓発を実施。

（対象者 17 名：　こども 2 名，他 15 名）

⑤7/17（火）九州デザイナー学院オリエンテーション

キャラクターデザインについてのオリエンテーションにて啓発を実施。

（対象者 61 名：　専門学生 60 名，他 1 名）

⑥7/22（日）地引網＆博多湾の自然観察会イベント【環境共生実行委員会】

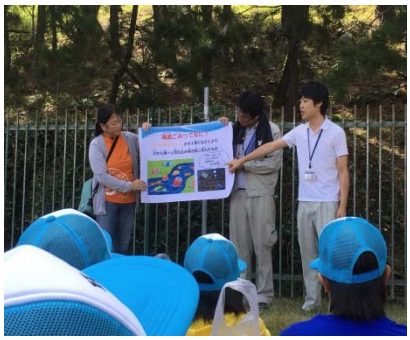
イベント中に参加者に向けて啓発を実施。

（対象者 88 名：　こども 35 名，他 53 名）

⑦8/1（水）「い～な」ふくおか・子ども参観【福岡市こども未来局】

イベント中に参加者に向けて啓発を実施。

（対象者 4 名：　こども 3 名，他 1 名）



⑧9/4（火）福浜小学校環境学習【福岡市漁協伊崎支所】

環境学習の中で小学生に向けて啓発を実施。

（対象者 30 名：　小学生 28 名，他 2 名）

⑨9/6（木）天神の清掃【グリーンバード福岡チーム】

清掃活動前に参加者に向けて啓発を実施。

（対象者 14 名）

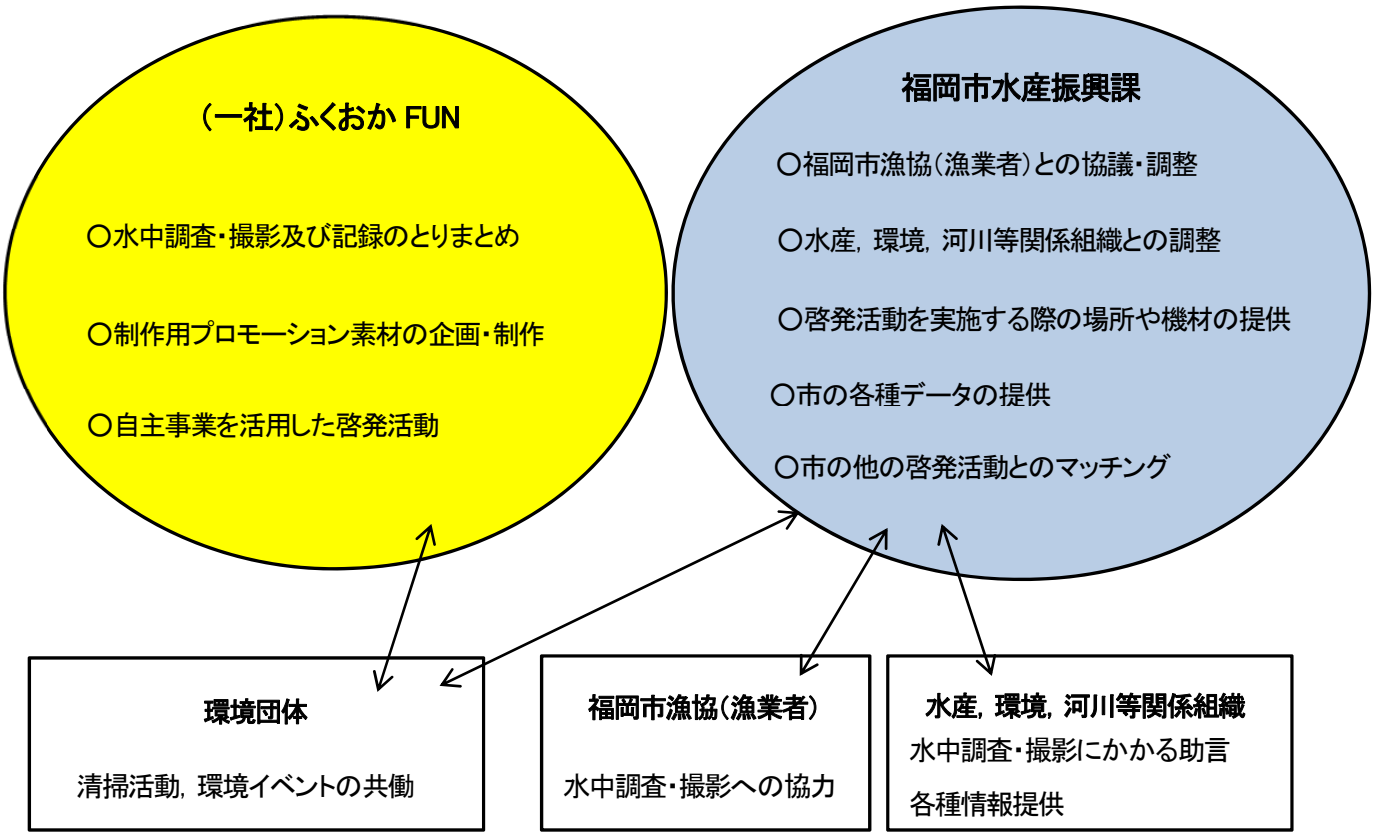
⑩9/11（火）室見川水系一斉清掃実行委員会会議【室見川水系一斉清掃実行委員会】

会議の中で委員に向けて啓発を実施。

（対象者 13 名）

※上記のほか，期間中に（一社）ふくおかFUNの自主事業におけるイベント，講演，授業においても博多湾の海底ごみ問題やリデュースについての啓発やアンケートを実施。（実施回数：10 回，啓発対象人数：約 500 名）

5 NPO 等と市の役割分担



6 担当者の声・市民の声

（1）市民の声

他団体と連携した活動や，NPO 等の自主事業において海底ごみ削減のための啓発を行った際に以下のような感想が寄せられた。

①「ふくおかの海をもっとよくするためにできること」についてのアンケート回答（一部抜粋）

・これからはごみを海に捨てないようにする。

・魚をたいせつにする。

・なるべく海の中のごみを回収して魚の住める環境を守っていきたい。

・生活排水に気を付ける。天然の洗剤を利用する。

・ゴミをどこにでも捨てないようにする。風で飛んでいかないように。

・これからは子どもたちに自然の大切さを教えていく。

・ごみの管理（保管，処分）をもっとしっかりしていく必要があると思う。

・ごみを必ず持ち帰る。

・家庭でごみを出さない工夫をしていく。

・川にごみを捨てない。ごみは持ち帰る。

②地引網＆博多湾の自然観察会イベントアンケート回答（一部抜粋）

・海底ごみも問題になっているので，魚のためにも家族で取り組んでいきたい。

・博多湾でたくさんの魚が採れること，それは海をきれいにする取組みがあればこそとわかった。

（2）担当者の声

①（一社）ふくおか FUN

・社会が目を向けにくい，しかし確実に今後問題となりえる課題に向き合うための準備をしっかりと行うことができている。

・NPO 等と行政だけでなく，福岡市漁協や学校，他の活動団体とも連携し，初年度としては想像以上の波及効果が生まれている。問題が生じたときは必ず実行委員会内で対話・協議し，互いの立場を尊重しながら違う価値観を理解するよう常に心がけている。

・漁業者の協力を受けて調査を行うことで,市民と海底ごみの関わりが現状では非常に少なかった事に気付かされた。調査を行うダイバーとしてだけではなく，市民目線での漁業者へのアプローチなども今後考慮して共働事業を進めたい。

②福岡市

・（一社）ふくおか FUN とは対等な立場で自由な意見交換ができている。事業 PR キャラクターの制作は，行政では思い至らない（一社）ふくおか FUN の独創的な発想と働きかけでデザイナー養成専門学校の全面的な協力が得られ，発信力のある若者と繋がるなど，共働事業ならではの効果的な事業展開ができている。

・世界的にもマイクロプラスチックなどの海洋プラスチック問題がクローズアップされていることから，これを契機と捉え，海底ごみやリデュースに関する市民啓発を図り，漁場環境保全の観点から，博多湾を守っていきたい。

・これまでの啓発では，「ごみを捨てない，ごみを減らす努力をしたい」，「魚のために家族で取り組んでいきたい」などの感想が寄せられており，少しずつではあるが，市民意識が向上しているように感じている。

7　31年度への展開

平成 31 年度は，今年度制作した啓発素材をもとにさらなる機会を捉えた啓発を行い，市民意識の向上を図るとともに，多様な主体による海底ごみ削減ネットワークの立ち上げ・企画を行い，海底ごみ削減に向けた動きを活性化していく。

【事業計画】（詳細については，別紙「平成 31 年度事業計画」参照。）

（1）海底ごみの「見える化」

①博多湾内での水中調査・撮影（平成 30 年度実施地点の経年変化確認）

②啓発用プロモーション素材の制作・拡散（市民啓発用ポスター・ノベルティ制作等）

（2）他団体との連携

①他団体が実施する清掃活動への参加・連携（継続）

②海底ごみに関するフォーラム・イベントの企画・運営

③海底ごみ削減に向けたネットワークの立ち上げ

【予算額】（詳細については，別紙「共働事業収支予算書」参照。）

総事業費：合計 4,003 千円

（1）事業実施経費：3,165 千円

①海底ごみの「見える化」：2,654 千円

②他団体との連携：511 千円

（2）管理運営費：　838 千円